

胃潰瘍について

山口外科医院

山口 英見 先生

ピロリ菌と潰瘍

ヘリコバクター・ピロリ菌という言葉を目にしたことはありませんか？テレビのコマーシャルなどでも耳にする有名な菌です。胃・十二指腸潰瘍の原因の一つとして、1983年に発見されました。感染経路ははっきりしていませんが、衛生状態の悪い途上国などで水による感染が報告されています。日本でも戦前・戦後の井戸水から感染した可能性があるといわれています。ピロリ菌は、潰瘍患者の80～90%に感染が認められています。また、潰瘍以外にも次の病気に関連することが報告されています。胃リンパ腫、突発性血小板減少性紫斑病、胃がん、胃ポリープなどです。

ピロリ菌感染を知る方法は幾つかありますが、現時点での保険診療では潰瘍を認めない限り調べることができません。除菌についても同様に、潰瘍を認めなければ保険診療では除菌もできません。また、検診や人間ドックなどでピロリ菌感染を認めても、潰瘍がなければ保険診療では除菌できません（自費では除菌可能）。そのときはかかりつけ医、または専門医にご相談ください。

薬剤性潰瘍

薬剤性潰瘍の原因で最も多いものは、腰痛、関節痛、頭痛などの鎮痛剤の内服によるものです。抗生物質やステロイド剤なども原因となりますが、鎮痛剤が約70%の原因となっています。副作用の自覚症状が乏しく、突然の吐血、下血、あるいは貧血症状で発症することもあります。病院で鎮痛剤を処方されたときに胃薬も処方するのは、潰瘍を予防するためでもあります。

最後に、ピロリ菌感染による潰瘍、薬剤性潰瘍とも原因が分かれば、それぞれの治療方法、治療期間も異なります。何か胃の調子がおかしいときは、早めにかかりつけ医にご相談ください。